Panasonic

P-1 Grand Prix 2023

QOLリフォームよりすぐり ④

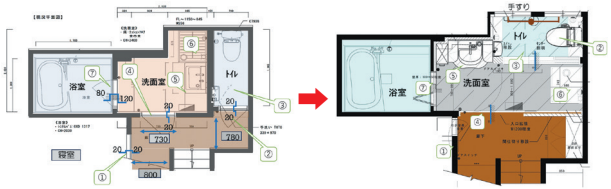
広告

『みんなのQOL向上』――家族とペットに囲まれて

「P-1グランプリ」。それはリフォーム実績年間2万件以上を誇るパナソニックエイジフリーの社員が、「プランナーとしての人間力」「プランニング力」「プレゼン力」を競い合う、年に1度の社内コンテストだ。2024年1月23日、第23回が開催された。今回はパナソニックエイジフリー首都圏西リフォーム課の飯塚孝清さんの事例を紹介する。60歳代前半で脳出血により言語障害を伴う要介護状態となった妻と、妻を献身的に介護する夫、そして2人の愛犬それぞれのQOLの向上の実現を目指して環境整備を行った。

飯塚さん

家屋は築40年の2階建て。2階部分に妻と夫、妻の妹、そしてペットの犬の花ちゃんが暮らし、1階には妻の母と姉が暮らしているという3家族同居世帯だった。妻の生活の場である2階部分を飯塚さんがアセスメントしたところ、各部屋の入口に段差があることを始め、トイレの入り口は特に狭く入りずらいこと、中に入っても介助スペースが確保できないこと、洗面室から浴室に移動する際にも高い段差を越えなければならないことなどの課題が確認できた。



Before　Renovation Plan

さらに本人や家族から要望や困りごとを聴き取ると、夫は1日のかなりの時間を介護に費やしており、腰痛も悪化。同居する親族は介護に協力したい気持ちはあるものの、介助スペースの問題からできることが限られているため、夫も遠慮して任せられないでいることが分かった。そして妻もそのことに精神的な負担を抱えて、「せめて自分でトイレに行けるようになりたい」と希望した。さらに、夫が妻の介護にかかりきりのため、愛犬の花ちゃんをかまってあげられなくなっていることも2人の悩みの種になっていた。

そこで改修プランは、介助のしやすさと将来の自立を見越して作成。トイレや浴室への入り口にもなる洗面室への出入り口は、780mmから1200mmに開口部分を広げ、車いすの回転スペースを確保。扉はスイッチタイプの自動開閉扉にし、車いすで移動する妻も操作しやすいようにした。また、最も介助負担が大きかったトイレは、妻の健側から移乗動作ができるよう、位置そのものを変更。入口開口も拡張し、側面アプローチも可能にした。

改修後

改修前

リフォーム後、介助しやすい環境が整ったことで同居している妻の姉妹にもトイレ介助を任せることができるようになり、夫の介助量は大きく減った。「仕事にも復帰できるようになり、自分の時間が増えた」と夫からは喜びの声を聞くとともに、妻自身も夫への精神的な負担が減ったことによる安心感が生まれた。

飯塚さんは事例発表後、「お2人が気にかけていた花ちゃんも、散歩が再開できて嬉しそう。家族みんなのQOLが向上した」と振り返り、黒田能隆統括部長は「動線・動作をきめ細かく観察し、進入する角度や回転スペースなど細部の寸法にこだわり、単なるリフォームにさせない事例」と評価した。

Nursing Care Products by Panasonic

くらしの中で「できる」ことを増やし、そして、次に「やりたい」ことに
向かっていただきたい、そんな思いをシンボルマークにしました。
パナソニックの介護用品で「心身が前向きに、その先に歩みだす」。
私らしくいきいきとしたくらしを実現できる社会を創ること
それが私たちの存在意義です。

パナソニック エイジフリー
エイジフリーショップ
お問い合わせ先：営業企画部　06-6908-8122